

第 37 回一志会例会 レポート 平成 28 年 11 月 29 日



ゲスト 絹谷 幸二 氏

一志会は、「公の精神」のもとに積極的に社会的責任を果たそうとの想いを共有する大企業経営幹部の「コミュニティー」ですが、11月29日に第37回例会を開催しました。

今回は、わが国の洋画壇を代表する洋画家、文化功労者、日本芸術院会員、東京芸術大学名誉教授、現大阪芸術大学教授の絹谷幸二氏をゲストにお迎えして、「芸術と経営」と題した講話をいただきました。

絹谷氏は、20年以上にわたり東京芸術大学、そして、大阪芸術大学で後進の指導に携わったかわら、アフレスコ手法による大掛かりな壁画の制作や精力的な個展の発表を行う当代きっての洋画家です。2014年文化功労者を受賞。そして2016年12月に、大阪の梅田スカイビルに待望の絹谷氏の美術館『絹谷幸二 天空美術館』が開設することになりました。絹谷作品約50点が所蔵され、『心を耕す場所、そういう場所にしたい』とご本人も大きな期待を寄せられています。絹谷氏は、「現代絵画の旗手」として我が国のみならず、世界的に知られるアーティストであり、芸術を超えて、経済、政治、社会も語る異才です。一柳とは長年の酒飲み仲間で、酒が入ると人なつっこくなる好人物です

絹谷氏は沢山の著名人を弟子に持たれる素晴らしい芸術家である事を一柳より紹介され卓話が始まりました。冒頭において、絵を描くという事は、経済、自然科学、哲学等のジャンルを超えた全体を見る学問、人間を見る学問であると語られました。また、常識では風景画と人物画は相反する概念と理解されているが、どちらも本質は同じであり、世の常識と言われるものに捉われる事は愚であると語られました。

次に絵画が生まれた理由について話されました。ローマ時代になり住居に壁が出来ると、圧迫感が生じるようになる。絵画とはその圧迫感を解放するためのもので、現在の人間の生活に不可欠なものであると語気を強められました。さらに、戦争において文化都市は攻撃対象にならず、芸術は命を守るとい事が言え、その重要性について述べられました。

最後に常識は非常識であり、企業経営においても従来の常識に捉われず、別の視点で物事を判断することも必要であると締め括られました。

卓話では、絹谷氏の様々な幅広いお話を頂き、芸術家ならではの独自の視点からの内容に、皆引き込まれていきました。参加された会員からは、「自分の常識が、全く異なる別の視点から見ると、非常識であるという気付きを得た。」等の意見が聞かれました。



絹谷氏 卓話風景



ベネッセインフォシエル 丸山氏 会員スピーチ風景

続いて、会員スピーチのコーナーで、ベネッセインフォシエルの丸山社長から、情報セキュリティの事例分析についてご説明いただきました。

その後の会員の交流時間帯では、今回初参加となる、加藤・品川リフラクトリーズ 取締役常務執行役員から自己紹介を頂きました

続いて、会員からの近況報告として、柳生・プチファーマシスト 代表取締役、中村・

BEENOS 代表取締役副社長兼グループ CFO、荻原・エコ・パワー 代表取締役社長、小林・あいおいニッセイ同和損害保険 常務執行役員、西本・住友化学 代表取締役専務執行役員、坂本・パラマウントベッド 取締役、藪・蝶理 取締役、生田・ミクニ 代表取締役 COO、柴山・大和リゾート 代表取締役社長、若林・阪急電鉄 専務取締役よりそれぞれホットな報告をいただきました。

その後も、ゲストの絹谷氏のネクタイをかけたのじゃんけん大会等、絹谷氏を囲んでの交流が続き、大変にぎやかな雰囲気となりました。



品川リフラクトリーズ
加藤氏



プチファーマシスト
柳生氏



BEENOS
中村氏



エコ・パワー
荻原氏



あいおいニッセイ同和
損害保険
小林氏



住友化学
西本氏



パラマウントベッド
坂本氏



蝶理
藪氏



ミクニ
生田氏



大和リゾート
柴山氏